論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	佐藤 創
論文担当者	主査 廣瀬 宗孝
	副査 坂口 太一
	副査 平田 淳一
学位論文名	An Analysis of the Factors Producing Multiple Ventricular Arrhythmias during Pulmonary Artery Catheterization (肺動脈カテーテル挿入時における心室性不整脈のリスク因子解析)
論文審査の結果の要旨	
<p>肺動脈カテーテルの挿入は、まれではあるが致死的な不整脈を発生することがある。しかし多変量解析を用いたその発生リスク因子の解析は、これまで行われていない。そこで申請者は、肺動脈カテーテル挿入時に発症する心室性不整脈のリスク因子を明らかにすることを目的に、前向き観察研究を行った。</p> <p>対象患者は、桜橋渡辺病院で心臓血管手術を受ける 174 名の患者で、全身麻酔導入後に右内頸静脈より頭部低位の体位で、麻酔科医が肺動脈カテーテルを肺動脈まで挿入した。挿入は脈圧波形を確認して行った。挿入時の心室性不整脈の発生数を「なし」、「1」、「2 発以上」に分類し、患者の年齢、性、身長、体重、心胸郭比、心臓の駆出率、心房細動や弁疾患の既往、挿入時間との関係を、単変量解析と多変量解析を用いて、リスク因子を検討した。</p> <p>結果は、心室性不整脈の発症率は 85.6%で、その発症リスク因子は、単変量解析で挿入時間のみであった ($P=0.082$)。2 発以上の発症率は 44.8%で、その発症リスク因子は、単変量解析と多変量解析で弁疾患の既往と挿入時間であった。</p> <p>以上より申請者は、肺動脈カテーテル挿入時に発症する心室性不整脈のリスク因子は、カテーテル挿入に要する時間が長いこと、および弁疾患の既往であることを明らかにした。よって本研究は、学位授与に値するものと判断した。</p>	